資料７

タチウオひき縄漁業における収益性の改善

調 査 船：正福丸（4.3ﾄﾝ）
調査期間：9/1~10/31
調 査 船：喜久吉丸（4.2ﾄﾝ）
調査期間：9/1~12/20
調査海域：豊後水道，伊予灘

調査のねらい

1．１人でも操業が可能となる操業の効率化
　　２隻の調査船による実証調査
2．経費の削減効果の検証
　　擬似餌の開発による餌代の削減
3．採算性の確認
　　タチウオの単価向上，経費削減効果
4．資源の持続的利用方法の開発
　　未利用資源の開発，タチウオ資源の把握

平成23年度調査の主な成果等

1．操業の効率化においては，タチウオの盛漁期に相当する９月から12月までの間，現行の２人乗り操業時の省力化や１人でも操業可能とするために，①投縄装置の開発，②反応水深に合わせた効率的な操業方法の開発，③擬似餌の開発，④漁獲物選別作業の軽減，⑤簡易式船上秤の開発の５項目について２隻の船による洋上での実証調査に取り組んだ。
2．投縄装置の開発においては，漁業者考案モデルを改良しながら実施した結果，当初頻発した針トラブルは解消し，汎用性に向けた最終の微調整の段階に至っている。
3．簡易式船上秤の開発や擬似餌の開発は，実用化に向けた更なる改良が必要である。
4．採算性の改善に向けては，タチウオの価値を高める具体的な取組として，地元の生産者のみならず市場，加工，流通の関係者からなる専門部会を設置し，タチウオの価値向上の具体策について検討を進めている。また，地元の海洋科学高校と地元女性部が連携して加工品の開発や料理教室の開催を通じて，地元への普及に向けた具体的な取組が行われている。これまでの共同出荷による福岡市場のみの搬送から地元への出荷を含めた複数の販路を開拓するために，中央水産研究所と連携して取り組んでいる。引き続き，漁業者の意識を確認しながら当該地区におけるビジネスモデルについての具体案を構築する予定である。
5．低未利用資源の開発やタチウオ資源状態の把握等については，大分県の専門機関を活用して行っている。

開発中の投縄装置

自分たちが作ったタチウオ製品を販売する高校生